



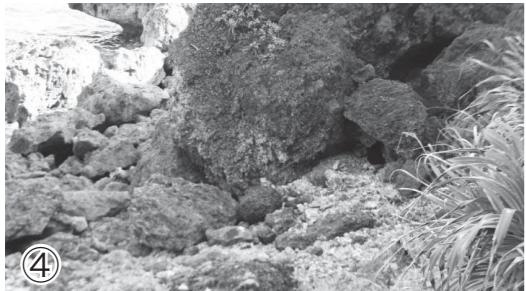
特集 千年先の、未来へ。

① 11月11日、海の環境ネットワークと他のボランティア団体共同で伊良部島サバウツガーの海岸清掃作業が行われた。ボランティア活動実施の話聞いて個人で参加した方も。サバウツガーは、伊良部島の生活用水を支えてきた歴史ある井戸で、宮古島市指定史跡に指定されている観光名所。

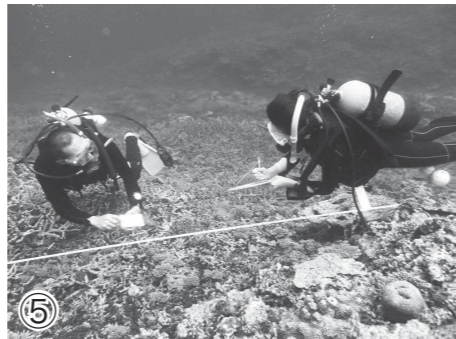


② 「僕、ゴミ取るの得意だよ！」と慣れている様子で手際よくゴミを回収。潮の流れが早くなる冬場が一番ゴミが溜まるとのこと。③ 集めたゴミを上まで運ぶのがまた大仕事。120段以上もある階段を、大粒の汗を流しながら皆で協力して運ぶ。約2時間の作業で、こんなに大量のゴミが。こんなに大変な思いをして綺麗にしても2ヶ月も経つとまたゴミが出てくるそう。ゴミのポイ捨ては絶対にしてはいけないと、改めて考えさせられる光景。④ 綺麗な海岸は、こうした努力で守られている。海で遊んだ帰りには、必ずゴミを持ち帰るようにしたい。

綺麗な海が、ここにある。



⑤ 海の環境ネットワークの主要事業の一つ「リーフチェック」。世界共通の基準に沿って、珊瑚礁のモニタリング調査を実施。⑥ もう一つの主要事業「教育事業」。実際に自然に触れながら、環境保護の大切さを子どもたちに理解してもらう。



と隈本さんは、個々に活動しているボランティアを組織化したほうがより効率的に活動できると考え、『海の環境ネットワーク』を立ち上げました。主な活動内容は、「海岸清掃事業（ビーチクリーン）」、「ダイビングで海に潜って珊瑚の状態を確認する「海洋調査事業（リーフチェック）」、小学生や島外の児童生徒に自然環境の保護について授業を行う「教育事業」などです。海岸沿いにゴミが溜まってしまふことについて春川さんは、『悪意なくやってしまっていることがたくさんあるのではないかと思います。昔からの習慣でゴミを海に捨ててしまっていたり。また、海のゴミは海から来たと思っている人が多いが、実際は、島に住んでいる人たちが出したゴミが多いんです。皆さんに環境についてもっと知ってもらうことが、環境保護に繋がると思っています。』と海への想いを語ってくれました。

宮古島の海をもっと好きになってもらいたい



NPO 法人
宮古島 海の環境ネットワーク
住所：宮古島市平良字前里 39
MAIL：miyako@econet.jp.org



次の世代まで、この海を残したい

「宮古ブルー」と呼ばれる透明度の高い海。太陽の下で鮮やかに輝く海は、市民・観光客を始め、多くの人に愛されています。そんな宮古島の海を守るため活動する人たちがいます。海の環境ネットワーク代表理事の春川淳さんにお話を伺いました。

海

といえば、どここの海を思い浮かべますか。宮古島は、

沖縄県内でも特に海が有名な島です。世界最大級の旅行口コミサイトの『日本のベストビーチTOP10』に毎年選ばれる「与那覇前浜ビーチ」や「砂山ビーチ」を始め、宮古島には人気の海・ビーチが各地域にあります。この宮古島の海を守るべく立ち上がったのが、NPO法人『宮古島海の環境ネットワーク』代表の春川淳さん・京子さん夫妻と隈本剛さんです。宮古島の海に、常に付いて回るのが『ゴミ』の問題。海から漂着するゴミや、島内で出たゴミが風で浜辺まで運ばれて、やがて堆積していきます。堆積したゴミは、宮古島の景観を損ね、環境汚染の原因になる。この問題に対し、これまでは個人のボランティアが清掃を行っていました。2012年9月、春川さん